

259

特252

740

咄!!

不敬

阪急

寶塚
女青

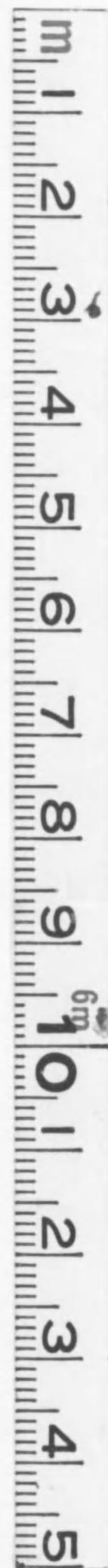
の真相

10セシ

少女
歌劇

を繞る有閑婦女子の醜痴態

ユダヤ思想撲滅同盟發行



始



特252
740



目次

阪急電鐵と寶塚	一
寶塚の解剖	二
寶塚「女青」の日常行動と國際ダンス	四
新聞記事に表はれた大不敬事件	八
問題を惹起した會員に訊く突撃訪問十五分	一四
不敬「寶塚女青」排撃運動各地に蜂起す	一九
本書刊行の目的に就て	二七



◎ 阪急電鐵と寶塚

京阪神方面で「阪急」と云へば誰知らぬ者ない程、有名な阪急電鐵であるが關東人士のため以下簡単に概要を説明する。阪急とは阪神急行電氣鐵道の略稱であつて、大阪を基點として大阪神戸間は國鐵及阪神電鐵との併行線なるが、更に寶塚迄延長して大阪―神戸―寶塚、この三角形循環運轉系體を持して、春夏秋冬、毎日數萬の人々を阪神方面より遊蕩的寶塚へ送り込まれて居るが、この重要な役割を務めて居るのが阪神急行電鐵乃ち「阪急」なのである。阪神間と極めて便利な交通機關の整備を持つ寶塚は、凡らゆる遊蕩的施設が完備されて居るが、就中寶塚繁榮の中軸をなして居るものは寶塚少女歌劇であらう。この遊蕩的歡樂境としての諸施設は直接に間接に「阪急」の經營と見做さるゝことは寶塚少女歌劇學校の現校長たる小林一三氏は最近迄阪急電鐵の社長たりし人である事を想到するならば略ぼ了解されやう。

更らに「阪急」の經營に含まるゝ大阪驛頭の「阪急百貨店」の存在は餘まりにも有名である、この外「阪急」寶塚沿線に膨大なる地域を有する土地會社等も小林一三氏の勢力支配下と觀て差支へなからう。

◎寶塚の解剖

二

その正體が甚だ不可解なる事は、齡ひ「老境」に達せりと迄は行かずとも芳紀正に貳十五歳以上の女子に、少女と云ふ名を冠し出演せしめてゐる寶塚少女歌劇學校の存在である、演技内容は月毎改變しての公演には無論觀覽料を收得して開演して居る事は、純然たる營利的興行であると同時に出演する歌劇學校生徒に到つては「完全なる俳優」である事も異論あるまい、然るにこの種營利的興業に附隨したる「俳優税」を納入してゐない。所謂「合法的脱税行爲」を續行しつゝあるがこの赦す可からざる非國民的脱税行爲は、中少女達の企圖された事では無論あるまい。利潤追蓄にのみ吸々たる寶塚少女歌劇學校經營者の飽くなき「鈍慾」と厚顔無恥振りは、彼の算盤上手の支那人でも三舍を避けると同時に到底企て及ぶ處ではあるまい。

今や國家非常の秋、百數十度の炎熱下に國運を賭して北支に、中支に、喝と、塵と、而も「血を彩りて」最前線に奮戦なす「皇軍の將兵」に對して最大且つ最高の感謝を捧げると共に銃後の守りを堅實且緊密にし以て「出征將兵」に内顧なからしめん事に務めねばならない事は云ふ迄もない。

見よ、「出征將兵」の武運を祈る千人針、慰問袋乃至は「可憐な少年少女が」納豆を賣つて軍資獻金、或は日常の小使錢を節約して恤兵基金に獻金なす少年少女等、々、これ等童心に燃ゆる愛國の赤誠心は街頭隨所に横溢してゐる。

反面に、當然國家に納入す可き税金を「學校」と云ふ美名に「カムフラージュ」して合法的脱税行爲をなすに至つてはユダヤ人的思想の浸潤者に非らざるやを疑はれても敢て逃避あるまい。

正體の不可解なるものに、寶塚女子青年會がある、女子青年會と云へば日本女性的徳性を涵養し所謂良妻賢母とし、亦たらん事を目的とする修養團體、亦はその機關たることは一般の例である。獨り寶塚女子青年會のみは「超例外」であることは筆者が拙筆を以て説明する迄もなく會員自ら極めて卒直に、而も大膽に物語つてゐる、彼女等は「閑」と「金」がありあまるに委せいろ／＼な集會に美名を冠し、集合たるや實に鼻持ちならぬ亂痴奇騒きをしてゐるのである、尤も集合の大部分は「歌劇」の組見乃至は總見のため組織されて居る事は一點疑ふ餘地なき事は「阪急」が寶塚に於ける諸施設のうち「コンクリート」建三層樓の堂々たる極めて壯麗なる建物を「女子青年會」に提供してゐる一事を觀ても大體想像に難くあるまい、彼女、會員達は阪神間の「有閑マダム」乃至は「蓮葉娘」等でその會員たるや壹千數百名に上つて居る、彼女等は「歌劇」の總見に或は「國際ダンス」

三

に其他の集合に費消する額は決して『僅少』なものではない、如何に『阪急—寶塚』の繁榮策のためには多大の便宜を與へて組織されて居るとは云へ、誰れが『そうせしめた』かを想倒するに及んで實に慨嘆の至りである。

女子青年會の外に、正體の不可解なるものが『ダンスホール』寶塚會館がある、眞正なる『ダンス』は國際的社交機關として近代化してゐるが、『高級ダンスホール』として自負して居るこの寶塚會館たるや實に得體の知れない外人と、接胸弓腰他人の足を踏む事にも氣付かず、彼等の有する挑發的體具に洵酔しつゝ狂操的ジャズに伴ひ自己満足に浸つてゐるのである、『阪急百貨店—寶塚女子青年會—寶塚會館』その内容を簡単に説明しても共産黨シンパや大不敬事件乃至はスパイ嫌疑者等を續出して居る事に想倒したならば、豫め首肯出來やう。

この外、寶塚新温泉、等、等、あれ共紙數の都合上次號に譲る事とする。

◎寶塚「女青」の日常行動と國際ダンス

寶塚女子青年會の本年一月以降に於ける『プログラム』の二三を拾つて見やう。

國際親睦舞蹈會。三浦環歡迎茶話會。文樂座に人形を観る會。チエリーダンスの會。觀櫻園遊會。寶塚歌劇觀劇會。東寶俳優を中心とする座談會。

△昭和十二年六月

- 四日 料理學園講習
 - 七日 水くき會
 - 八日 淀の川網會 (當日豪雨で中止となる)
 - 十日 短歌若葉會 (於寶塚公會堂)
 - 十日 古川綠波一座觀劇會
 - 十一日 寶塚音樂學校運動會觀賞
- 參加會員三百七十名に上る。

- 十一日 料理學園講習
- 十二日 女青句會發會 (阪急沿線箕面、料亭梅屋敷にて、列席者十餘名)
- 十三日 寶塚歌劇觀劇會

恒例により出席者二百六十名を超加

十四日 水くき會

十五日 ハワイアングダンスの會 (於 寶塚會館にて)

十七日 東京大相撲大阪場所見物

關取溜りを襲つて、力士をサイン攻めにし(強心臓所有者)との評名をいたゞいて歸る

十八日 料理學園講習

二十日 歌劇觀劇會

出席會員 二百八十六名

二十一日 水くき會

二十五日 料理學園講習

二十六日 短歌若葉會 (寶塚公會堂にて)

二十八日 水くき會

以上月別(プログラム)に仍つて見ると判るやうに、一ケ月中の(半ば)乃至それ以上の日數を社交、修養、に籍口して遊び暮すのが寶塚女子青年會の日常行動である。

その會則に掲げられた尤もらしい主旨は、何れを探しても一向見當らない、如何に(不眞面目)

極まるかは彼女等の機關誌(寶塚女青)自分が卒直に且つ大膽に告白して居るのである、曰く(大體に於て、遊樂的な會合には出席率が多く、地味な實利的と考へらるゝものには少い、その差が比較的位でなく、斷然桁外れに違ふので)……………

御家庭の婦人に最も必要な事だと考へる料理に關する、即ち罐詰料理、壽司講習會に至つては心淋しい程僅かの出席者しかなかつた)と實情を吐き、更らに(千幾百名を算する會員中、料理學園の講習生が四十名、水くき會、若葉會、(短歌會)、が僅かに二十名位しか参加者が無いほど振はない實情である云々)(以上機關誌(女青)第三卷第四號所載原文)

(どうです。女青の催しに就て、何か御感想は……………)

(さう、女青は時々尖端的な奇抜な會をするでせう。あれが私好きですね、婦人會つていへば、何處でも判こで捺したやうな、あぶなげのない催しかしない中に、女青では、特に(チータイム)の會などでは、相當大膽な事をするでせう、たとへば國際ダンスのやうに、まあダンスをするよと云ふだけでも、よその婦人會にない特色ですわ……………)

以上は機關誌掲載(會員に訊く實撃訪問15分)第六景

奥戸わか子談

會員自ら語る片談によつても寶塚女子青年會が如何なるものかは推察されやう、

國際ダンスに判つては相當大膽なものなるが、それが彼女等の讚美的である事も窺知される。

(新らしがり) を以て(近代的淑女)なりと誤認してゐる彼女等(有閑マダム)乃至は(蓮葉娘)共は綺羅びやかに着飾り高級の装身具に、いとも上品を装ひ乍ら、狂人的(ジャズバンド)に伴れて吾れ先きにと前進する。(素手)と(織女)胸に胸、腰は弓のやうに彎曲させて抱き締め平氣で頬ずりして踊つて居る姿態、一度寶塚會館のダンスを垣間見れば如何に(不良性)を多分に持つて居るかが一目瞭然である。

◎新聞記事に表はれた大不敬事件

(阪急寶塚女子青年會の大不敬事件の本論に入るに及んで大阪神戸市内發行の各紙の報道内容を轉載して事件の概要に觸る事とする。

咄！不敬記事を摘發された

寶塚女子青年會の機關誌

兵庫縣寶塚新温泉外園課内寶塚女子青年會から發行してゐるハンドバツク型趣味雜誌(寶塚女青)

初號に、不敬記事が掲載されてゐる事を發見した大阪府特高課檢閲係では、事件を重大視し、直ちに兵庫縣特高課に移牒すると共に、殘部を押收したが、不敬の内容は、同誌特輯(會員に訊く突撃訪問十五分)と題する記事中、三十二頁の平野節子と雜誌記者の問答の中に、我國民として口にするべからざる皇室の尊嚴を冒瀆する言辭を弄してゐたものである。

言語道斷の大不敬事件

會社の營利本位に出來た

有閑夫人のグループに過ぎぬ

昨報——阪急寶塚女子青年會から發行の雜誌(寶塚女青)の不敬事件は、大阪府特高課より移牒に、兵庫縣特高課では大いに驚き、寶塚當事者も殘部の回收に狂奔してゐる。何れ同誌の署名發行
人伊島理吉氏及び不敬の言辭を弄したと見られる平野節子外關係者數名の召喚を見るべく、節子は有閑マダムとして寶塚女生徒間にもとかくの噂が高いが、今回の不敬事件により日本臣民としての情操教育に於いてすら、なつてゐないこのグループの全貌が、漸次明るみへ暴け出される模様であり、眞に恐懼に堪へざるものとすれば、此際(寶塚女子青年會)なるものは、須らく解散して謹愼

の意を表すべきであるといはれてゐる。

抑も、この寶塚女子青年會なるものは、名は厳めしさうであるが、未だ嘗て公共的社會事業のためには働きかけた例を見ず、小林一三氏が阪急社長時代に、寶塚少女歌劇ファンたる有閑階級婦人達を糾合した、一種の總見屋のやうな阪急の營利本位に組織されたもので、現に、阪急重役の夫人令嬢達が理事となり、今度の不敬事件の平野節子訪問の案内役たりし須藤裕子（これも平塚氏の二女）なども、その一人である、さうして阪神間のブル階級の夫人や、インテリイ令嬢達大凡二千人を擁し、月々の歌劇見物や、社交ダンス、手藝等の集合に日を送つてゐるもので、名は（女子青年會）であるが、實體は、單なる遊戯的な結社に過ぎず、嘗て外人團とダンス會を開いて忌むべき風評さへ立ち、又もや、今回の如き皇室の尊嚴を冒瀆する言辭を弄せる記事を平氣で掲載して、同會員に配布するなど、恐懼の極みである。而して從來不敬罪として、新聞雜誌の發行禁止や、筆者の體刑を受けた者も、多くの場合、不用意の裡にその比喩の文字や、古代皇室に關する記事が、偶々筆禍となつたもので、今回の如きは、明白に不眞面目に、皇室の尊嚴を冒し奉る如き一婦人の言辭を、そのまま掲載するなど、全く狂人といはうか、不逞漢といはうか、之は匹夫野人ならいざ知らず、苟も天下の富豪、智識階級の婦人を以つて結成された同會に、かゝる惡思想の瀰蔓してゐるものと見

れば、由々しき問題で、或意味では（大本教）や（ひとのみち）教の不敬事件以上と見られる。然も、同雜誌は、兵庫縣や、内務省への無届出版なるに於ては、今や何をかいはんである。寔に痛嘆事で、當局者は此際直ちに、同會を解散して善處するのは至當ではあるまいか。

二年間も届けません

（寶塚女青）の編輯員安居憲太郎氏は事件の重大に驚き語る。——この雜誌は會員だけの機關誌であり、届けなくてもよいと思ふて、二年間無届で發行してゐましたが、本回の件で、届出の必要が判つたので、手續をとつてゐます。今發行してゐるのは、約三千部で、その半數は取り戻しましたが残りは極力探してゐますが知れません。一同謹慎してゐる。）
（以上大阪日日）

スパイに次ぐ此不敬

國賊共産黨のシムパも出した

雜誌（寶塚女青）の不敬事件については、府檢閱課、兵庫縣警察部の手配によつて、直ちに押收されたことは、昨報の如くであるが、兵庫縣警察部では事件を重大視し、十六日同雜誌發行人伊島

理吉及び不敬の言辭を弄したと云ふ平野節子の兩君を召喚、嚴重取調べを行つてゐる、尙、今回の不敬事件によつて、如何に、寶塚少女歌劇を繞る周圍の腐敗墮落、情操教育の皆無を物語るもので殊に、同女子青年會は、曩にもスパイ事件に關しとかくの噂があり、又共產黨シムバの須藤某を出したこともあり、この際、縣警察部では斷乎（寶塚女青）の發禁を命じ、同會の解散を命ずる模様である。
（大阪今日新聞）

有閑嬢の輕佻から 重大な不敬事件

寶塚女性の社交機關誌に

某大地主令嬢が筆禍

寶塚女子青年會と云へば、寶塚少女歌劇をめぐる外郭後援團體であると同時に、その會員が寶塚少女歌劇を中心に京阪神在住の有閑マダム有閑令嬢千餘を會員に組織されてゐるだけに特異な華かさを誇る所謂有閑階級社交團體としてのブルジョア性を遺憾なく發揮してゐたが、彼等會員の聲

すべき生活振りを又遺憾なく表現してゐる同會發行の機關誌（寶塚女青）第三卷第四號に端なくも暴露された。會員に訊く突撃訪問記（第十景平野節子様）の記事中、我が皇室の尊嚴を冒瀆するも甚だしい一文は正に近來稀なる不敬事件として社會の耳目を聳動させたが、この不敬記事の執筆者である寶塚方面の大地主の娘平塚某はその後當局に依つてどう處分されたらうか同會がかゝる不祥事を惹起したのも過去二年間この雑誌が無届のまゝ發行されてゐたことにも原因してゐるので、これが取締の任にある縣當局今後の態度と共に注目されてゐるが、遂に某愛國團體もこの問題の徹底的糾弾に起つに至つた

二十九日來某愛國團體に糾弾運動の事務所を同女子青年會の事務所（寶塚公會堂）附近に構へ、時局重大の折柄、かゝる國賊的階級存在を掃蕩すると縣當局同青年會に對して猛運動の火蓋を切つたので、愈々この問題は社會の表面に出で、早くも同女子青年會はこの四圍の情勢に止なく廿九日緊急會議を開催して解散を決定したと傳へられてゐるが、然し、問題はこれに依つて解消したものでなく、この事件が華かな寶塚少女歌劇の存在を背景としてゐるだけに、この成行きは愈々注目されるに至つた。
（神戸又新日報）

◎問題を惹起した

一四

會員に訊く突撃訪問十五分

各紙の報道記事に依つて、大不敬事件の外廊は略ぼ諒解されたと思ふが、今次問題の焦點となつた(會員に訊く突撃訪問十五分)第十景を寶塚女子青年會機關雜誌、(寶塚女青)(第三卷第四號初頁)より原文のまゝ掲げて不敬事件を惹起した彼女等の環境的氣分を傳へる事とする

第十景

寶塚

平野節子様

場所は——地理的に記述すると、寶塚の中州、須藤冬助氏の御宅からさつと一丁許り寶塚會館の方へ寄つた地點で、門標を見ると變つた書體で、平野としてある。

(此處よ、如何、ちつちやい宅でせう。私のね、實弟の家内、上品にいふたら、何といふか知ら、然り〜令夫人節子君の御うち如何、此の説明でわかつた?)

案内役、須藤冬之助夫人裕子さんは、例によつて、斷然朗かなもんです。チャマヂリーツとこれはベルの音響(あら、いらつしやい、まあお二人)

(訪問記につまりらん事書かれるといかんよつて、私がついて來てあげたのよ、節ぼう感謝しなさい。

この調子、この論法、裕子夫人あくまでも若い女學生である。

(まあおゝきに……)

節子夫人も朗かに應酬する。

(貴方、私に先づなにを、ききなさる御心算)

(さあ)

記者も遂に悪疑つぼく夫人をみつめて、

(先づ何をきかうかな。然り〜貴女たしかに節分に生れたのでしたつけね)

(何故)

(だつて節子つていふのでせう)

(あら嘘許り……私〇〇〇に生れたのよ)

(はあ、すると三月六日ですか)

(まあ、貴方阿呆やね、この人昭和の産と思つてんの、三月六日に生れたのやつたら、一番古くてまだ十二よ、この人十二に見えるねえ、節ぼう) かういわれると、記者も勢ひとぼけざるを得ない。

(おや／＼そやつたら、また〇〇〇がわかつたんかいな)

(ちつと、貴方十吾みたいね、そのたよりないところが……)

(濟みまへん、そやつたらどないにいはう。えゝとほんまに何時だんね)

(そやからいふてるぢやないの……)

(何を問はうかな) 瞥と床の間を見ると、對に飾つた菖蒲徳利に、五月人形を利かせた武者繪の軸が掛けてあり、その床脇一杯に、印畫紙がすらりと乾かしてある。

(奥さま、私はこの部屋から推理して、先づ二つの重大なる發見を致しましたよ)

(大袈婆ね、何の發見して……)

(まづ、奥様に子が有る、それも男の子である。どうです。)

(尋常よ、貴方以前からよく知つてる癖に仰山な云ひ方ね)

(もう一つ、これは本當の發見です)

(何)

(御主人が大のカメラファンであること、如何、當つてゐるでせう)

(よういはんわ、其處こと、貴方お茶目さんね)

(貴方と同じです、ところで、これから眞面目です、御主人の御姓名は)

(平野嘉男)

(會社は?)

(お父様の會社、平塚土地よ)

(はあ、父は平塚、子は平野……塚がどうして野になりました。)

(そこが土地會社ぢやないの)

と、須藤夫人が例の警句で茶化したのが、すぐ

(あのね、つまり私の實家、平塚の母方の姓が平野といふので私達兄弟のうち一番末の子嘉男が母の實家を繼いで、平野といふやうになつたわけよ。つまり御養子に行つたわけね。)

(左様です、矢張り貴方、賢いわね)

(降参、須藤さんにはもう叶はん)

と、この止端に襖の向ふで、先刻問題になつた英夫ちゃんが、寝起きらしく泣き出した。今年三歳の愛くるしい坊ちゃんだ。

(私達は、以前は、東京にゐたの、こちらへ来てからまだ四年よ、此處に落着く前は、逆瀬川にゐただけけれど、同じ事なら、姉様(須藤夫人)や、兄様の近くが便利でせう、そこで遂ひ一昨年ここへ落着いたの、そんなわけで、女青へ姉さまに引張られて入會してゐるもの、本當にお恥しい存在よ。)

(なか／＼どうして。ところであのお寫眞見せて頂けませんか。)

(どうぞ)

手に取つて一枚々々眺めると仲々面白いのがある。

(これ御主人ですね、えらい綺麗な藝者に囲まれて……何ですこれは、松茸狩の時の撮影らしいですな)

(ああ、それ去年の秋のお寫眞でせう。ベストを引伸したのです。)

(奥さま、妬けませんか、こんな寫眞)

(阿呆らしい。どん／＼藝者遊びをする位のかいしよが無かつたら、男は駄目よ。)

(おや／＼)

(貴方も、うんと氣ばつて、藝者でもどん／＼お買ひなさいよ、如何せ男つてそんなもんよ。)

(この調子だと長座すると、益々男をさげさうや、大きにおやかましよう。)

◎不敬「寶塚女青」

排撃運動各地に蜂起す

大阪神戸に於ける各紙が逸早く、不敬事件を摘發報道さるゝや關西に於ける愛國諸團體は時を移さず、事務所を寶塚榮町に於き、不敬阪急膺懲同盟結成下に、これ等非國民的の、巢窟へ向つて、

膺懲撲滅の巨彈を打ち込むと同時に猛烈な運動を開始した、該同盟の（決議）を轉載して見やう。

決 議

- 一、大不敬集團、阪急寶塚女子青年會、の撲滅開散を期す。
- 一、不良有閑夫人等を使嗾し、阪急寶塚女子青年會を功利的に利用し、同會を通じ有産有識階級間に不健全非愛國的精神の滲透に助援を恣にせる阪急電鐵會社の底流的精神の絶對糾彈排撃を期す。

更らに東京、大阪、京都にも同一排撃運動が蜂起するに至つた。今、東京に於ける運動狀勢を此に掲載して見やう。

不敬阪急並に寶塚女青を暴く

ユダヤ思想の絶滅を期す

今や皇國日本は有史以來未曾有の重大時局に當面し國民舉國一致よくこの時局を認識し國難突破に邁進して居るのである。

然るにこの皇國非常重大の秋、唯々利潤追求の前には國體も國家も顧みざる亡國的國賊的資本魔が跳梁しユダヤ思想の移殖傳波の役割を演ずる徒輩が存在する事實を知る時吾人はその日本人なるやを疑ふと共に痛憤禁する能はざるものである。

吾人は斯の如きユダヤ的資本魔に對し斷乎排撃膺懲の鐵槌を加え不逞思想を掃滅し以て國民思想を統一し國體の眞姿現げん非常時克服に貢獻せん事を企圖するものである。

この事實を見よ

電鐵界の一王者（阪急）の手厚き援助の下に結成された寶塚女子青年會が過般その機關誌を通じて、重大なる不敬言辭を自ら暴露し!!關西愛國團體の糾彈する所となり問題を惹起してゐる。

素より、該大不敬言辭の内容に觸れる自由は有しないが、少くとも皇民として、絶對苟くも口にし得べからざることを右記女子青年會員は平然として語り、雜誌編輯者亦非常識にも、それをそのまま、登載して數千の會員に配布し、當局から指摘されるに至つて、周章狼狽只管諒解運動に狂奔しつあると聞くに及んで吾人は全く呆然としていふ處を知らざるものである。

凡そ日本國民として如何なる無智の人々と雖も口にせざる不敬言辭を然も教養ある上流家庭の婦女の集團たる右女青會員は敢て高談し、聽き寫すもの亦些かも疑念を挾まずして之を筆にし而して

かゝる思想を會員に鼓吹して怪しまぬといふが、右寶塚女子青年會を貫く思想の根基なのである。曩には、共産黨シムバ・グループを出し、近くはスパイ嫌疑者とその會員中より出して物議を醸した事實ありとしても、それは全く寶塚女青の中心思想と隨動したまでであつて、右女子としては當然の行爲と斷ぜざるを得ない。

では阪急寶塚女子青年會とは一體何ぞ！

阪急重役を始め阪神間在住の會社重役、富豪の所謂令夫人、令嬢を會員とする一社交團體である少くとも表面は、阪急電鐵の分身であり、その経営指導下にあるもので、而もこの集群は全く二體一心である。然し此團體は創設以來嘗て他の團體の如く、社會公共事業的行動は唯の一度として行つたことがない。それは、赤が赤であつて白でないと同様、寔に必然の結果であつて同團體の主要生命は、阪急への奉仕として、寶塚少女歌劇組見にあるわけだが、(閑)と(金)の有り餘る是等有閑婦人と雖も、二六時中歌劇組見では倦怠を生ずるが爲、一ヶ月の内約二週間を、とかくの名目の下に集合、閑を消して居り、時に團體としての假面上、若葉會(短歌會) 水くき會(書道會) 料理講習會等を催するが參集者は數千の會員中、僅々二名十を越えず、之に反し、若しそれ彼等會員の所謂豪華版會合國際ダンス會などには會員は綾羅錦繡を身に纏ひ、競ふて出席、外人と相

抱擁しつゝステップを踏むのを享樂するといふ不健全極まる團體で、その正體は謂はば不良有閑夫人先端嬢の集團なのである。

吾人は、是等有閑夫人等が金の使途に困却、外人の尻を追ふ遊戯三味の享樂を、とかく批判し非難せんとする程有閑の徒ではない。要は唯彼女等會員が、言語道斷の不敬と意識せずして日常茶飯の裡に談笑し合ひ以つて、一大グループ寶塚女子青年會の零團氣を現在の如く、赤の殖民地化し、この非常時局に當つても日本精神を忘却し果て、不知不識の裡に有産有識階級の子に又その家庭に、不良、不健全、不逞思想を扶殖浸潤せしめつゝある由々數重大事。

この不健全思想の巢窟、寶塚女青を巧利主義の爲に利用し、且つかゝる不敬團體を保育指導に懸命は努め、以つて不敬思想の有産階級への滲透に、間接の助力を吝まなかつた、阪急電會社並に寶塚少女歌劇經營首腦者(小林某)の心底に流れる非國民的不逞ユダヤ思想を徹底的に糾弾し一切の反團體思想絶滅の聖戰を起す事は現下非常時國民に課せられたる最大義務たる事を痛感し吾人は勇躍目的貫徹のため邁進せん事を天下に聲明し同輩の士の協力を望むものである。

昭昭十二年八月

不敬阪急糾彈同盟

ユダヤ的資本家 小林〇三を排撃す

國民は一滴の血をも國家に捧げて國難に殉ぜんとする秋。

祖國を思はざる我利我利盲者を斷乎糾弾す!!

寶塚少女歌劇學校!!

女生徒公演!! 有料興行!!

合法的脱税!! 寶塚女青の不敬事件!!

その元兇たる亡國的思想の所有者を徹底的に膺懲せよ!!

ユダヤ思想を撲滅せよ!! 國體明懲を徹底せよ!!!

昭和十二年八月

不敬阪急糾弾同盟

要請書

兵庫縣寶塚町在寶塚少女歌劇學校ノ認可取消ヲ要請致シマス

理由

一、右記學校ノ内容ヲ檢討スルニ年齢二十五歳カラ三十歳近クノ女子ニスラ少女ノ名ヲ冠シ少女歌劇學校生徒ノ公演ト稱シテ營利本位ノ演劇ニ出演セシメテ居リマス。

斯ノ如キハ學生ノ公演ニ非ズシテ職業的俳優ノ劇場出演ニシテ明白ニ營利的興行デアリマス。第一、右記學校生徒公演ノ觀客吸集ヲ目的トシテノ組織タル寶塚女子青年會會員雜誌(寶塚女青)第

三卷第四號ニ掲載サレタル同會員ノ不敬言語ニ關スル記事、並ニ同會員中ヨリ共產黨シムバ、或ハ、スパイ嫌疑者等ヲ出シタル事實

前二項ニヨツテ見ルモ同學校ヲ一貫スル指導精神ガ營利本位ノ非國民的思想ナル事ヲ思考サレマス。ス現下皇國非常重大ノ秋、斯ノ如キ思想ト内容ヲ有スル營利本位ノ劇團ヲ學校トシテ認可シ置ク事ハ國民思想上、國民風教上、及ボス所ノ影響甚大ナルモノアルヲ深憂ニ堪エマセン。

故ニ文部當局ハ右記學校ノ認可ヲ取消スト共ニ國民思想善導ニ立脚シ適當ナル御處置ヲ講ゼラレン

事ヲ要請致スルモノデアリマス。
昭和十二年八月二十三日

二六

不敬阪急糾弾同盟

文部大臣

安井英二閣下

要請書

別書實塚少女歌劇學校ノ件ニ關スル文部大臣閣下ニ要請致シマシタル理由ニ基キ斯ノ如キ非國民的
合法脱税行爲ノ一切ニ對シテ此際大藏當局ハ斷乎タル處置ヲ以テ嚴重ニ課税シ以テ戰時財政調整ニ
邁進セラレン事ヲ要請致シマス。

昭和十二年八月二十三日

不敬阪急糾弾同盟

大藏大臣

賀屋興宣閣下

◎本書刊行の目的に就て

八紘一字のわが皇道を世界に宣布する事は皇國日本肇國の大精神であるこの大精神の發露によつて東洋の平和は確立され世界人類の平和と幸福が招來されるのである。この理由實現に邁進する事は大和民族に課せられたる一大使命であらねばならぬ。共產思想の宣布によつて、世界を征服せんとする野望を持つものはユダヤ民族である。大和民族が世界の優秀民族である事は今更説く必要はない、ユダヤ民族も或意味に於て優秀民族であると云ひ得る、この二大民族がその目的に於ては異つて居つても同一方向に進んで居る事は否定し得ない事實である。従つてこの二大民族の一大衝突は必然的に避けられない宿命を持つて居る。今やこの兩民族の衝突の危機は時々刻々に迫りつゝあるのである。大和民族は土地資源の再分割!!!國際的平等權確保のため正義の進軍を起して居るのだ。(日支事變はその尖兵戰である)一方ユダヤ民族はその思想力と經濟力とによつて世界征服の野望達成に向つて全力を集注して居る最後の強敵たる大和民族を討たんとしてゐる皇國の暴戻支那膺懲の目的は支那四億の民衆に非らずしてユダヤ民族のカイライたる蔣介石政權の打倒にある事は勿論である支那全土より赤魔を追拂ひ全支國民をして共產赤魔の毒手より救済するこれなくては隣邦支

二七

那に王道樂土の建設は不可能である故に今次日支事變の根本的解決は中國共產黨との決戦に於てこれを木ッ葉ミジンに粉碎した上でなければ不可能であると吾人は確信するものであるそれは中國共產黨の徹底的敗北はユダヤ民族の對支政策の失敗を意味するからである。

ユダヤは赤化思想の宣傳によりて君主國を倒す事に重點を置き各國無産層インテリ層に宣傳網をクモの巢の如く張り擴げられて居つたのだがその後國際情勢の變化其他によつて對策を加えた様だそれは世界の富の三分の二はユダヤ系である従つてユダヤ資本が外債となつて各國に投資されて居る資本關係でユダヤ財閥と關係資本家が接見する機會のある事は勿論だ、例せば日本の電力業者がアメリカに行けば彼地のユダヤ財閥と會見する事は當然である。

ユダヤ資本を通じて資本家にユダヤ思想を滲透さすべく功妙なる方法を講ずる手段に出る事は蓋し世界征服の野望に燃ゆるユダヤ民族の當然過ぎる程當然の事と言はざるを得ない。ユダヤ思想宣傳の國際的機關たるフリーメーソンが重要な役割を演ずる事は勿論である。ユダヤ資本の偉大なるに美望措かざる金持共が直接ユダヤ財閥と會見し金權支配の唯物思想に溺惑陶醉の度を深ふし金、金のためには祖國を忘れ黄金の權化たるユダヤ思想に同化され國賊非國民たる行爲を敢て犯して迄も利潤追求のため黄金盲者に墮して行くもの果して非らざるなきや吾人は深憂するものであ

る。利慾のためには商道德も國民としての道義をも蹂躪して顧みざる沒義道なる拜金資本家共の行爲を檢討してこの儘に放任せんか彼等は此の皇國非常重大の秋遂に萬邦無比の祖國を忘却するの不逞行動に出つものあるなきや否己にこの不逞亡國ユダヤ思想に犯され居るものあるを思へば憂を深くして居る時偶々吾人の黒表中に在る財閥關係の一團體に於て不敬問題惹起したるにより吾人は憂國の至情禁する能はず茲にその内容を天下に發表し併せて吾人の所懐を陳べ全國民にまみへんとこの小冊子を草したるものである。(終)

378
141

不許
複製

昭和十二年九月十日印刷
昭和十二年九月十五日發行

定價金拾錢

著作人兼
發行人

川崎市榎町四三

林 四 平

印刷人

東京市芝區金杉二ノ一五

永 富 實 之 助

發行所

川崎市榎町四三

ユダヤ思想撲滅同盟

終

